

乙 第 号

池田朋博 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第号	氏名	池田朋博
論文審査担当者	委員長	教授	中島祥介
	副委員長	教授	小林 浩
	委員	教授	小西 登
	委員	教授	大林千穂
	委員	教授	藤本清秀
	(指導教員)		

### 主論文

The phosphorylation status of Fas-associated death domain protein is associated with biochemical recurrence after radical prostatectomy

FADD のリン酸化の状態と根治的前立腺全摘除術後の生化学的再発は関連する

Tomohiro Ikeda, Nobumichi Tanaka, Keiji Shimada, Yoshiaki  
Matsumura, Makito Miyake, Satoshi Anai, Atsushi Tomioka,  
Eijiro Okajima, Akihide Hirayama, Kiyohide Fujimoto,  
Noboru Konishi, Yoshihiko Hirao

UROLOGY 第81巻 第3号 607-610頁

2013年3月発行

## 論文審査の要旨

本研究は、hormone-naive の前立腺癌患者に対する前立腺全摘術後の新規予後予測因子の探索を目的として、摘出標本における Fas-associated death domain protein (FADD) のリン酸化の意義について検討したものである。

術前無治療の前立腺癌に対する前立腺全摘術の臨床摘出標本 106 例を対象。摘出標本の Gleason score 8~10 でリン酸化 FADD の陽性率が有意に低値であるが、診断時の PSA 値によるリン酸化 FADD の陽性率には差を認めないことを明らかにしている。一方、生化学的再発を PSA 0.2 ng/ml 以上と定義したところ、生化学的再発を認めた群 (106 例中 39 例) ではリン酸化 FADD の陽性率が有意に低値であること、リン酸化 FADD 陽性率 15% をカットオフ値とすると、陽性率 15% 以下の群で 5 年非再発率は有意に低値であることを明らかにしている。

以上のことから、摘出標本におけるリン酸化 FADD の発現が、前立腺全摘術を受けた前立腺癌患者における術後再発の予測因子となり得る可能性を示唆しており、今後の前立腺癌治療の臨床に貢献する有意義な研究と評価される。

## 参 考 論 文

1. Clinical significance of heme oxygenase-1 expression in non-muscle-invasive bladder cancer.

Miyake M, Fujimoto K, Anai S, Ohnishi S, Nakai Y, Inoue T,  
Matsumura Y, Tomioka A, Ikeda T, Tanaka N, Hirao Y  
Urol Int 85(3):355-363, 2010

2. Inhibition of heme oxygenase-1 enhances the cytotoxic effect of gemcitabine in urothelial cancer cells

Miyake M, Fujimoto K, Anai S, Ohnishi S, Nakai Y, Inoue T,  
Matsumura Y, Tomioka A, Ikeda T, Okajima E, Tanaka N, Hirao Y  
Anticancer Res 30(6):2145-2152, 2010

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに前立腺癌治療の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 25 年 5 月 14 日

学位審査委員長

消化器機能制御・移植医学

教 授 中島祥介

学位審査副委員長

女性生殖器病態制御医学

教 授 小林 浩

学位審査委員

病態機能病理学

教 授 小西 登

学位審査委員

臨床病理診断学

教 授 大林千穂

学位審査委員（指導教員）

泌尿器機能制御医学

教 授 藤本清秀